



2025年12月18日

日本鉄道労働組合連合会

## JRグループ労組連絡会

# 第22回分科会プロジェクト

JRグループ労組連絡会は12月10日、大阪市内で「第22回分科会プロジェクト」を開催し、2026春季生活闘争方針の策定に向けて議論した。

主催者を代表してあいさつした海上弓彦代表幹事（JR西日本連合・ジェイアール西日本伊勢丹労組）は、「2026春闘は、高まった賃上げ機運を単なる一時的なトレンドで終わらせず、今後の継続的・構造的な賃上げへと定着させるための「分水嶺」と認識し、JRグループ全体に「賃上げムード」を継続的に波及・拡大させ、すべての働く者の生活向上を実現しよう」と呼びかけた。

基調提起では、住吉一家事務局長（JR連合・労働政策局長）が、直近の社会情勢を共有するとともに、賃金実態調査結果を解説したほか、「ONE TEAMで今年も賃上げ！」のスローガンのもと、連合や交運労協の方針を軸に具体的な要求を掲げるなどとする2026春季生活闘争の素案を提起した。

## 方針の策定に向けて、分科会で活発な議論を展開

業種別に分かれて議論した分科会別討議では、闘争方針（素案）の是非や闘争方針（素案）を肉付けする議論が展開された。各分科会からの報告では、JR連合の闘争方針（素案）に対して一定の理解が示されたが、要求実現に向けて、「人財確保・定着の取り組み」「総合生活改善・福利厚生制度の充実」「価格転嫁・適正取引の推進による賃上げ出来る環境の整備」など、様々な課題も報告された。

JR連合は、引き続き議論を深め、1月28日に開催する第38回中央委員会で2026春季生活闘争方針を決定することとしている。



海上代表幹事

